

議員総会会議録（要点筆記）

日時：令和５年６月２２日（木）

場所：全員協議会室

午前１０時００分 開会

午前１１時５５分 閉会

○沢田清議長

議員総会を開会します。

本日は、本市の重要課題である「中心市街地活性化」及び「６次産業化を通じた農業者支援」の推進について、市長特任顧問及びプロジェクトリーダーから講義いただき、議会としても共通認識のもと、それぞれについて理解を深めて参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

議題１．「半田市中心市街地活性化の取組みについて」を議題とします。

○大山仁志市民経済部長

市長特任顧問につきましては、昨年１２月から本市で地域の方や、町内会など様々な場所で活躍いただいているところです。そのような中で、本日は、これまでの取組み、そして今後の取組みについて講義いただくこととなりますので、よろしくお願いします。

○伊藤大海市長特任顧問

【資料に基づき説明】

○沢田清議長

説明は終わりました。このことについて何かご質疑ありませんか。

○伊藤正興議員

説明いただいた内容について、どのように市民に向け、発信していくことを考えていますか。

○伊藤大海市長特任顧問

情報発信の仕方が弱いことが半田市の課題であると感じています。市のホームページにも特任顧問の活動レポートを掲載していますが、最近は、更新がしっかりできていない状況です。情報発信が肝であると考えているため、今後は発信のあり方を見直すとともに、しっかりと取組んでいきたいと思っています。

○國弘秀之議員

中心市街地活性化法の考え方に「郊外開発の抑制（コンパクトシティ）」の記載がありますが、今後の手法としてコンパクトシティ化を目指していくという考えをお持ちですか。

○伊藤大海市長特任顧問

現時点で、郊外開発の抑制をという話がある訳ではありません。しかしながら、中心市街地エリアとしているエリアに限っては、そのエリアの中で歩いて暮らせる街づくりという環境を作っていきたいと考えています。

○國弘秀之議員

中心市街地エリアとして記載のあるＡエリアについては、活性化が必要な場所であるにも関わらず、朝夕は非常に渋滞する箇所があるエリアです。中心市街地エリアに今後、人を集めていくとするならば、交通の利便性の向上についても検討が必須になると思いますが、そのあたりについては、どのように考

えていますか。

○伊藤大海市長特任顧問

ご指摘の箇所は、通勤、通学時間帯に混雑する場所ですが、都市計画道路として、現在、計画を進行しているものがあると思うため、これから環境が変わってくると思います。そのため、今後、中心市街地に対するワークショップを行う際に、具体的な話題が出てきた時には、どのような対応ができるかをしっかり考えていく必要があると思いますが、現時点では、具体的にどうするかといった方針はありません。また、街の中が車だと便利になることは、歩行者にとっては便利でなくなるということにも繋がるため、そのあたりについてどのようにバランスをとっていくかということについても検討すべきことだと考えています。

○國弘秀之議員

郊外の大規模開発と中心市街地の活性化という点が同時に進んでいくということについて、矛盾が生じているように感じます。郊外に大規模開発を行うことにより、そちらに人が集まるのではと思います。そのようなことを防ぐためにも、どこかで抑制を行う必要があると思うのですが、どのように考えていますか。

○伊藤大海市長特任顧問

現時点では、ご指摘いただいた内容に対する話し合いは行われていません。ご指摘いただいた件は、とても難しい問題であるのですが、本市で抑制を行ったとしても、近隣自治体の政策によりその自治体で大規模店舗が作られると必然的に本市の活力を吸い取られることに繋がると考えます。そのため、広域調整を行うということが求められるのですが、現状では非常に難しいと状況だと思いますので、逆にお知恵をいただければと思います。海外（アメリカポートランド）では、成長限界線を作り、取組んでいる都市もあり、ご指摘の点が問題点であると国も認識している状況です。

○沢田清議長

ありがとうございました。

しばらく休憩します。

1 0 時 5 5 分 休憩

1 1 時 0 5 分 再開

○沢田清議長

会議を再開します。

議題 2「半田市 6 次産業化農業者支援プロジェクトが目指すところ」についてを議題とします。

○大山仁志市民経済部長

市長特任顧問と同様に、昨年 1 2 月から活動いただいています。農業者との意見交換や面談を行い、農業従事者の意識改革を図るとともに、ネットワークの構築にも取り組んでいただいています。

○中野公雄プロジェクトリーダー

【資料に基づき説明】

○沢田清議長

説明は終わりました。このことについて何かご質疑ありませんか。

○芳金秀展議員

農福連携という言葉聞きます。この連携のあり方について、本市オリジナルな方法があると思うのですが、その点について考えを教えてください。

○中野公雄プロジェクトリーダー

農福連携の建て付けは、地域福祉との建て付けと考えます。福祉的な支援が必要な方が社会と繋がっていることが重要であり、このように広く捉えて、地域福祉との連携であると考えれば、いろいろな事例ができると思います。農福連携を福祉サイドから捉えると、対象者へのジョブトレーニングに重点をおき、行ってしまうがちです。制度を考える前に、品物が売れるモデルが必要であり、同時に、地域との関係性、連携をどのように捉えるかが重要だと考えます。

○小出義一議員

どのような形となれば、プロジェクトリーダーとして足跡を残すことができた、と考えているのかお聞かせください。

○中野公雄プロジェクトリーダー

まず、マルシェができることが挙げられます。そして、そのマルシェへの参画方法として、市民、つまりは農家が運営に携わる、更には、農閑期にもその農家が参加できるようになると、地域一体となるといった関係性を作り上げることができ、成功では、と考えています。また、売り上げの規模に関しては、農家の中には、これ以上規模を増やすつもりがない方もみえるため、地域に貢献していただける方を増やすとともに、市民が知っている農家を増やしていければと思っています。そして、市内の飲食店に地元の農産物を使用いただくことで、市民がその食材による料理を楽しめるようにと繋がればと考えています。

○小出義一議員

そういった面では、牛乳についてはどうでしょうか。

○中野公雄プロジェクトリーダー

品目に限らずですが、バラバラの農産物が多様にある中で、まだ手を付け切れていない品目について商品化がよいのか、独自の価値を生み出すブランディングすることがよいのか、を話し合うことが必要です。その話し合いにより、方向性を決め、どこと手を組んで売り出していくのが重要だと考えます。

○沢田清議長

ほかにありませんか。

(「なし」との声あり)

ないようですので、この件はこれで終わります。以上で本日の議題は全て終了しました。

これにて、議員総会を閉会します。

午前 11 時 55 分 閉会